

# 気持ちを込めて「春のお彼岸」

3月18～24日は春のお彼岸。今年も多くの方がお参りに訪れました。  
大きな震災の直後、みなさんそれぞれの気持ちを込めてご先祖様に手を合わせました。



「お彼岸(ひがん)」は春・秋分の日をはさんで前3日と後3日の間の7日間で前半3日間を「彼岸の入り」、中日(ちゅうにち)後の3日間を「彼岸の明け」と言います。

「彼岸」というのは仏教用語で、煩惱に満ちたこの世界「此岸(しがん)」から解脱した「悟りの世界」を指します。彼岸の中日は一年のなかで昼と夜の時間がちょうど半分になる日。

これが仏教でいう「中道(ちゅうどう)」にあたることから、この世から悟りの世界である「彼岸」に思いを馳せ、彼岸の明けである最終日を願いが成就する「結願(けちがん)」の日として仏道修行に励みました。

また、お彼岸は施しや先祖の供養など善行を積む期間でもあり、ぼたもちやおはぎ、ちらし寿司といったご馳走を仏前に備えて家族で食べたり、近隣に振舞ったりしました。意外なことですが仏教国のなかでもこうした「お彼岸」の習慣があるのは日本だけだそうです。



先代住職の奥様(左)と檀家さんはダブル90歳!今年も元気でお参りに。



お彼岸のあいだ本堂右手の玄関前には休憩所が設けられ、お茶とお菓子のご接待があります。



## お彼岸の中日「春分の日」は、自然をたたえ、生物をいつくしむ国民の祝日です



日本では春分の日を「自然をたたえ生物をいつくしむ」、秋分の日を「祖先をうやまい、亡くなった人々をしのぶ」として「国民の祝日」と法令で定めています。そしてこの法令の第一条には「(日本国民は)美しい風習を育てつつ、よりよき社会、より豊かな生活を築きあげるために、ここに国民こぞって祝い、感謝し、又は記念する日を定め、これを「国民の祝日」と名づける」とあります。



## 大事なものはバランス ～大きな揺れにも動じなかった石灯籠～

先日の地震では本堂の常花や燭台が倒れ、墓地ではいくつかの墓石などが倒れたり、ズレたりしましたが、境内のいちばん大きな灯籠は、この大きな揺れにもびくともしませんでした。東京に住む私たちも余震や停電などで心が不安定になりがちですが、何事も大事なものは仏教でいう中道(バランス)なのだなあ・・・と改めて感じました。(住職記)



本堂には塔婆を立てて震災で亡くなられた方を供養しました(左)。切り画作家の風祭竜二先生は「祈る思い」というイラストを描いて届けて下さいました(中)。

募金にご協力  
頂いた皆様、  
ありがとうございました!

